



## 「ものさし鳥」

野鳥観察では、見た野鳥の大きさの話をするのがよくあります。

「スズメよりやや小さい」「ムクドリとハトの間くらい」「カラスくらいかな」

大きさの比較の目安として、昔から身近で誰もが知っている鳥が基準として使われきました。

それが「ものさし鳥」、小さい順に「スズメ」「ムクドリ」「ハト」「カラス」で、大きさ＝全長は  
スズメ＝14cm、ムクドリ＝24cm、ハト（ドバト）＝33cm、カラス（ハシブトガラス）＝55cm

それらよりどれくらい大きいか小さいかを判断の基準とします。

●全長とは、鳥の嘴の先から尾羽の端までがまっすぐになるように見たときの長さです。

●現在ではムクドリとハトの間にヒヨドリを入れることがあります。  
しかし、ムクドリとヒヨドリ＝27cmとの差は3cmで、それくらい  
の大きさの野鳥は多くはなく、「ムクドリとハトの間くらい」でも十分話は通じるように思われます。

●また、そうなると、スズメとムクドリは10cmの差があり、その間にも何か「ものさし鳥」を入れたいところですが、知名度がある  
適当な鳥がなかなかいません。しいて挙げればヒバリ＝17cmですが、  
人によっては見慣れたというほどでもない鳥かもしれません。

結局これも「スズメよりひと周り大きい（オオルリ、ウソなど）」、  
「ムクドリより少し小さい」（シメ、ヒレンジャクなど）で十分通  
じるのではないのでしょうか。

●ところで、ムクドリは里山の野鳥で、旭山ではめったに見られず、  
おなじみではない人もいると思われそうですが、昔から人に近くてよく名の知れた鳥ではあります。

●カラスより大きい「ものさし鳥」としてトビ＝60cmを入れることもあります。

ただし、トビはワシタカ類の識別には役立ちますが、そもそも大きい鳥は多くはないので、「カラス  
よりかなり大きい」でこと足りるように思えます。

●シマエナガ（右上写真上）とゴジュウカラ（右上写真下）は、どちらも図鑑には全長14cmと記されています。  
しかし、野外で見るとゴジュウカラの方が大きく感じますよね。

これは、尾羽の長さによるもので、シマエナガは全長の半分が尾羽であるのに対し、ゴジュウカラ  
は2割程度。単純計算ではシマエナガの体は7cm、ゴジュウカラは11cmと、4cm、約1.5倍の違いが  
あり、体が大きく見えて当然となります。右上の写真は実際の比率と同じ大きさにしてあります。

●カササギは45cmですが、尾羽が長く、体の大きさはハトくらいとっていいでしょう。

このように、尾羽の長さは印象に残らず、体の大きさで話すこともあるので注意が必要です。

●シジュウカラ、アカゲラなど、身近な野鳥を自分の「ものさし鳥」にするのもいいでしょう。

●単独で見た場合は  
比較対象がなくて大  
きさを把握しにくい  
ですが、「ものさし鳥」  
および同じ大きさの  
鳥を見慣れておくと、  
大きさのイメージが  
つきやすくなり観察  
に役立ちます。

### ものさし鳥 実物と同じ比率です



◆スズメ 14cm



◆ムクドリ 24cm



◆ハト(ドバト) 33cm



◆カラス(ハシブトガラス) 55cm

# 旭山野鳥メモ 78 キセキレイ

**キセキレイ** Grey Wagtail *Motacilla cinerea* スズメ目セキレイ科  
北海道では夏鳥。山地の河川上流域＝溪流沿いに住む。河川が溪流環境であれば海岸近くにいることもある。セキレイ3種はセグロセキレイが中流域、ハクセキレイが下流域とすみ分けている(一部重なる)。



胸から下腹部にかけレモン色。英名”grey“の通り頭から背中中は灰色。雄は喉元が黒く、雌は白いか灰色の斑が出る(写真は雌)。

囀りは決まったフレーズはなく、「チチンピーピー」などと長く鳴き続ける。地鳴きは「ピピッ」、ハクセキレイに似るがやや弱い響き。

旭山では4月10日頃に渡来。第2駐車場周辺から遊具広場など道路沿い、学びの森でときどき見られ、夏から秋には吊り橋周辺でも観察機会が増える。10月下旬に南に渡っていなくなる。

界川住宅街の川沿いでよく見られ、界川交差点横の砂防ダム付近では、5月頃によく電線にとまって囀りしている。円山より東側では見られず、代わってハクセキレイが見られるようになる。

尾羽を上下に揺すりながら歩くのはセキレイ科の特徴。溪流沿いに営巣し繁殖する。巣立ち直後には親鳥が「チチン」と鳴きながら後ろに幼鳥を従えている光景が見られることがある。幼鳥は園内でも見られる。

フクジュソウとともに本格的な春の訪れを感じさせてくれる黄色い野鳥である。

## 2026年4月の野鳥トピックス

■4月中に渡来する主な夏鳥：アオジ、メジロ、クログミ、ヤブサメ、オオルリ、センダイムシクイ

●ホオジロ：3/28初認、昨年より5日遅。展望台周辺によくいます

●キジバト：3/28初認、昨年より2日早。ちびっこ広場周辺

●ヤマシギ：4/3初認、昨年より11日遅。笹藪のある場所

●ベニマシコ：4/3初認、昨年より4日早。やや開けた場所

●キセキレイ：4/4初認 昨年より4日早。道路沿い川の近く

●ウグイス：4/5初認、昨年より14日早。

※ヤマゲラ雄→



●シマエナガ：園内でときどき見られています ●ウソ：観察情報が減りましたがまだ見られそうです

●キクイタダキ：園内の松の木で観察機会が増えてきました。5月上旬まで見られます

●カワラヒワ：2月下旬から園内で見られるようになり「ギューンキリコロ」と囀りもしています

●クマゲラ：園内での観察頻度は落ちてきましたが鳴き声を聞く機会は少なくないです

●ヤマゲラ：近くでの観察機会が増え「ピョッピョッピョッ」という鳴き声は毎日聞かれています

## 春のたより～旭山ミニ生き物図鑑 2026年4月

3月後半の雪解けの進みが速く、花も早めに咲き出しました。

- ①エルタテハ  
成虫越冬し春一番に出る蝶
- ②ナニワズ  
春最初に咲く低木の花
- ③アキタブキ  
おなじみふきのとう
- ④カツラ雄花  
多く咲くと山が赤く見えます
- ⑤オノエヤナギ雄花  
花粉は野鳥の好物
- ⑥ツノハシバミ雌花  
ヘーゼルナッツがなる木



「アカゲラ通信」 第149号 2026(令和8)年4月6日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時～16時) FAX 011-200-0351



公式サイト